



第 8 号
平成 22 年 2 月 5 日(金)
横浜市地域まちづくりグループ
ぐるっと緑道・遊歩道研究会 発行

活動報告 ～安全・安心なまちづくりをめざして～

1、まちづくりワークショップを開催しました【平成 21 年 12 月 13 日(日)】。

(1) 開催趣旨

センター地区の発展・充実に伴い、近年、中川駅前商店街が寂しく感じられます。そこで、近隣に居住、お勤めの方々に意見や改善アイデアを出し合ってもらったために開催しました。

(2) ワークショップに関連する話題提供が、次の方々により行われました。

①「変わる中川 今までとこれから」 大野 佑介（東京都市大学 岩村研究室）



- ・中川駅周辺の 10 年間の変遷を調査・分析した。
- ・主な問題点：テナントが偏り、住民が求めるお店は不足。
- ・提 案：大学が立地し、教育熱心な親が多い等中川の強みを生かしての福祉のまちづくり。コミュニティカフェの運営。

②「地域と大学の交流・連携活性化のためのメディア活用」 中村 雅子(東京都市大学 准教授)

- ・人の交流をサポートするコミュニティ型のインターネットサイトウェブは、まちづくりに活力を与える。
- ・大学では、これらの研究と、自治体や市民活動の情報発信・交流のため、一緒に活用・支援を行っている。
- ・利用者にはまちづくりへの参加のきっかけにもなる。



③「中川ふれあい朝市の状況」 吉野 林蔵（中川ふれあい朝市会長）



- ・ニュータウン開発当初、生活に不便なため農協に農産物の提供依頼があって朝市が発足。大事な事業と認識し、続けてきた。
- ・利用者も移り変わっている。最近活気がないと意見もあったが、新鮮な野菜を提供するようメンバーとともに頑張りたい。

④「中川地域ケアプラザの活動状況と今後」 石田 宣子(中川地域ケアプラザ所長)

- ・中川駅上の福祉施設「ふれあい中川」では、中川地域ケアプラザ、介護老人保健施設、保育所の 3 施設が活動している。
- ・地域ケアプラザは、介護の相談支援、介護予防活動などを行い、地域のニーズに応じて事業を展開している。また、地域の集まりや保健福祉の活動に交流室・調理室も利用できる。



⑤「主婦の視点で中川駅前について」 笠原久美子(ぐるっと緑道・遊歩道研究会)



- ・中川に住んで 20 年。当初、買い物は隣町まで行っていた。
- ・駅ができ、スーパー、本屋等がオープンして便利になったが、同じ業種が重なり閉店する店が多い。センター北の開発も影響している。
- ・近隣住民のためのまちづくりが必要。良い環境を生かして落ち着きと温かみのある街であって欲しい。地域の人交流・出店できる場所作りや、支えあい育てるまちの在り方を考えて欲しい。

(3) ワークショップ: コーディネーター: 室田 昌子 (東京都市大学環境情報学部 准教授)

話題提供を受けて、「中川駅前商業地区の問題点、こんなまちにしたい、それにはどうしたらよいか」について、出席した方全員で意見を出し合いました。室田先生の進行により、概略、次のようにまとめました。

<p>① 特徴 (○) と商業地区の問題点 (×)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 周辺人口は増加 ○ 住民の地域活動参加意識は高い × 欲しいお店がない × 空き店舗が多く、人通りが少ない × 歩行者に安全でない箇所がある × 事業者の連携が弱い 	<p>② こんなまちにしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子供、高齢者、障害者が安心、安全に暮らせるまち • 文化、コミュニケーションのある地域のリビング • 周辺緑地とつながった安心して歩ける街 • 新鮮で安全な食品や生活用品が入手でき、健康な生活のできるまち • 地域と密接な関係を持った大学のある街 • キラッと光る店がある街
---	---



- ③ 具体的な改善アイデア
- 空き店舗の有効利用
 - 地域の住民、親子の交流ができる場所作り
 - 住民、農家、学生等が自ら運営するお店やイベント
 - こんな店が欲しいーカフェ、本屋、文具店、ファーストフード等
 - 東京都市大学の地域活動への参加
 - 地域ケアプラザの活動の活発化

(4) 総括

1 大久保 信正 (中川駅前商業地区振興会会長)

- 中川は全国五指に入る住みよいまち。開発から 20 年経ち、駅前商業地区は段差があり、バックヤードが狭い等不具合もでている。経営できるお店は限られ、偏った商店街であるのが現実。
- しかし、夢を持ち、成熟した良いまちにしていきたい。



2 内海 宏 (まちづくりコーディネーター)

- 興味ある提案が多数出て、非常に有意義だった。
- 中川は「緑豊かな文教地区」。その拠点がこの商店街である。
- これからは物販中心から「生活支援・サービス拠点」の商店街として中川全体の生活を支えるといった発想の転換をした方がよい。
- そのための機能は、従来の物販機能に加え、①住民手作りの販売等生活文化を発信する機能、②情報・コミュニケーション機能、③コミュニティとの連携交流機能の3つといえる。
- 「地区の皆さんが支えて魅力を感じられる拠点作り」を始めるきっかけとなる一日であった。



2、歩行者安全のための工事が都筑土木事務所により実施されます。

旧ヤマダ電気と横浜トヨペット(株)間の道路改善工事が、以下のとおり行われます。

- 横浜トヨペット (株) の御厚意を得て同社の一部緑地部分を利用して道路を拡幅。
 - 拡幅された道路に歩道を設置。工事は年度内に実施。
 - L字カーブ内側のビル敷地一部を道路に使用する御了解を頂き、併せてカーブミラー等を設置。
- この他、現在、都筑土木事務所により、「L字カーブ部→郵便局裏→学習塾までの道路の歩車区分の白線引きと一部グリーンベルト化」が行われています。

- 今回の工事を行っても歩道幅が 1.5m と狭いので、工事後の人と車の動きの変化を分析し、改善検討活動を続けていきます。この一環として横浜トヨペット(株)の将来の敷地利用変更時の連絡について市を通じてお願いすることを検討しています。

次回「ぐるっと緑道・遊歩道研究会」は3月13日(日)午前10時からケアプラザで開催。参加自由です。